下山田代・蕪木地区研究開発
施設用地内遺跡範囲確認調査

神谷上切遺跡・中坂佐後遺跡・朴の木・神谷田

（かみやかみぎりいせき・なかさかさごいせき・ほうのき・かみやだ）

所　在　地　豊田市下山田代町神谷上切・中坂佐後・朴の木、蕪木町神谷田（北緯35度9分50秒 東経136度43分4秒）

調 査 理 由　豊田・岡崎地区内陸用地造成事業

調 査 期 間　平成21年10月～12月

調 査 面 積　1,450㎡

担　当　者　鵜飼雅弘

調査の経過　調査は、愛知県企業庁による豊田・岡崎地区内陸用地造成事業に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて実施した。今年度は周知の遺跡である神谷上切遺跡・中坂佐後遺跡、県教育委員会の分布調査により遺物散布地と認められた朴の木・神谷田の計４地点について実施した。期間は平成21年10月から12月である。

立地と環境　調査地点はいずれも郡界川の南に展開する、標高400m前後の沢および丘陵裾部の緩斜面である。各地点の成果については、以下の通りである。

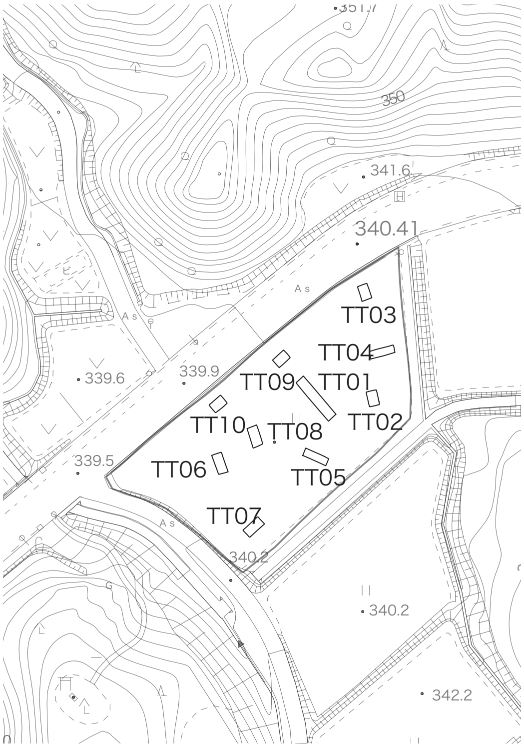
調査の概要　朴の木は標高450mに源流を発する２本の沢と下流の水田、丘陵裾部の緩斜面を調査範囲に66ヶ所の試掘坑（TTと略記）を設定した。うち19カ所で遺物が出土したが、東側の丘陵奥部TT22では溝１条を検出し、灰釉段皿・土師器が出土した。また東側丘陵裾TT35・TT39の褐色土中から弥生前期とみられる条痕文系土器が出土した。水田部分に設定したTT52の黒褐色土からは常滑系甕の胴部、灰釉広口壷の破片などが出土したが、遺構は確認できなかった。

ま　と　め　神谷上切遺跡・中坂佐後遺跡・神谷田については、遺物の包含は認められたものの細片が大半を占め、遺構は確認できなかった。耕作土に中世以降の陶磁器が混じることから、耕作による改変を受けていることが想定される。　（鵜飼雅弘）

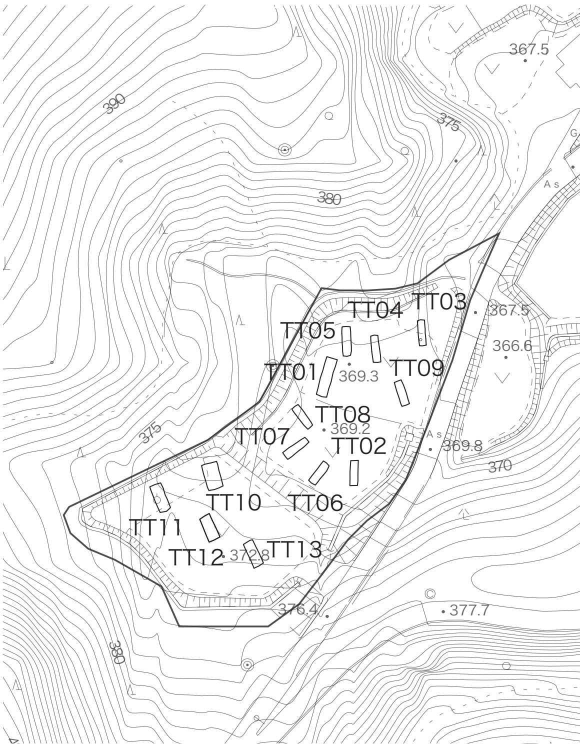
調査地点	標　高	トレンチ	遺構	主　な　遺　物
神谷上切	370m ～ 380m	13ヶ所	なし	山茶碗、土師質鍋、施釉陶器（中世・近世）
中坂佐後	368m ～ 380m	24ヶ所	なし	山茶碗、土師質鍋、施釉陶器（中世・近世）
朴の木	430m ～ 460m	66ヶ所	溝１条	条痕文系土器 (弥生前期)、灰釉陶器、山茶碗、施釉陶器（中世・近世）
神谷田	339m	10ヶ所	なし	土師質鍋、山茶碗、施釉陶器（近世）

調査地点（1/2.5万「東大沼」）

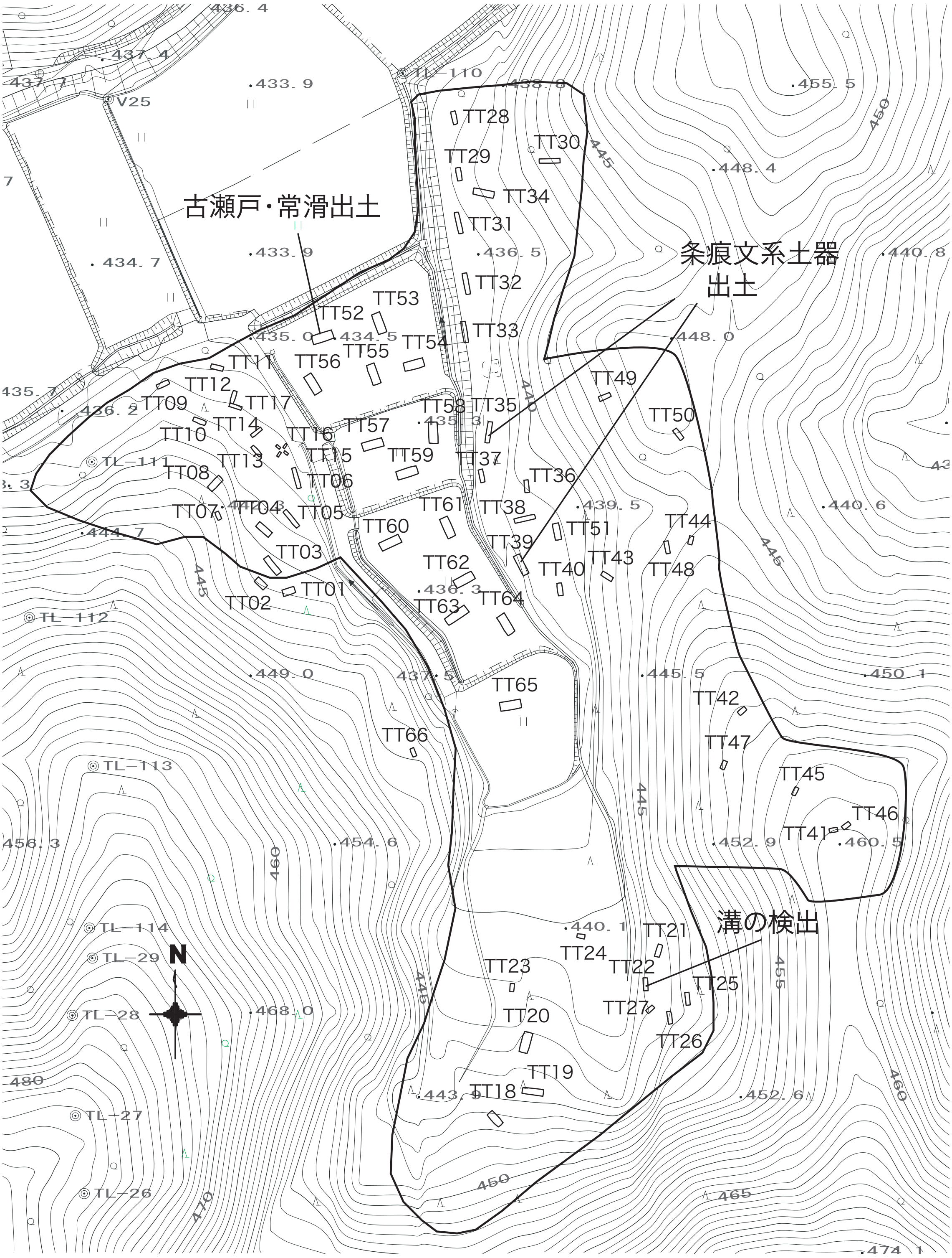
中坂佐後遺跡トレンチ配置図（1:1500）



神谷田トレンチ配置図（1:1500）



神谷上切遺跡トレンチ配置図（1:1500）



朴の木トレンチ配置図（1:1500）